



ショールームで最新製品の説明を受ける参加者ら

見学会で最新製品の機能学ぶ

建築設備技術者協会中部支部（名古屋市）の設備女子会は26日、パナソニックエコシステムズ（本社春日井市）の本社工場で、約4年ぶりの見学会を行った。他支部からの参加者を含め25人が参加した。

同工場は、換気扇や熱交換システム、次亜塩素酸空間除菌脱臭機「ジアイーノ」のほか、パナソニックグループの空調関連製品2800機種を製造している。工場内で部品から完成品までを一貫生産し、生産台数は年間約300万台に上る。

参加者は、多品種少量生産に対応した工場設備を見学した後、ショールームで製品の機能紹介や安全対策、新製品などの説明を受けた。特に特殊フィルターによって換気時に室内外の

空気の温度差を縮め、冷暖房コストを抑えるという熱交換換気扇の説明などに、熱心に聞き入っていた。

同協会は、建築設備士や設備設計1級建築士らで構成する団体。設備女子会は、女性の資格保持者を増やすことなどを目的に、研修会や親睦を深める活動を行っている。見学会は、コロナ禍の影響で中断していた。

参加者からは「生産ラインを直接見られる機会は貴重。効率のよい仕組みや、製品の安全対策などのこだわりを知ることができた」や「建築設備として扱っている製品を、部品の段階から見ることができ、知識が深まった」などと感想を話していた。

（尾東）

パナソニックエコシステムズ工場で

